

柏葉脳神経外科病院広報誌／季刊

かしわば

Vol. 23

2009.8

Kashiwaba Neurosurgical Hospital

発症直後から開始する 急性期リハビリテーション

部門レポート／臨床心理室

KASHIWABA NEWS／職場風土改革2年目の取り組み

柏葉脳神経外科病院B館屋上庭園



特定医療法人

柏葉脳神経外科病院

発症直後から開始する

急性期

社会復帰率の向上に貢献しています

リハビリテーション

柏葉脳神経外科病院のリハビリテーション科では脳血管障害などの患者さんに対し、主治医の指示のもと、発症直後に患者さんの状態に応じたリハビリテーションを開始し、早期離床と機能回復を365日体制でサポートしています。

極めて重要な意味を持ちます。急性期リハビリテーションは全身状態が十分に安定していない時期に行われるために、十分なリスク管理が必要ですが、当院では医師の監視下で患者さんの血圧や心拍数、呼吸状況などを管理しながら、発症直後（当日か翌日）に急性期リハビリテーションを開始し、日常生活動作の自立度と社会復帰率を高めることに貢献しています。

急性期リハビリテーションとは、発症からできる限り早い段階で行われるリハビリテーションのことです。脳血管障害などを発症した患者さんを寝かせたまま動かさないと、筋肉や関節の動きが衰えたり、肺炎や床ずれになったりします。こうした全身に及ぶ多様な合併症を予防するためには、急性期リハビリテーションが適切な時期に適切な内容で行われることが極めて重要な意味を持ちます。

極めて重要な
急性期リハビリテーション



リハビリテーション科
理学療法室主任

理学療法士 釘本 充

急性期リハビリテーションにおける リハビリテーションスタッフの役割

言語聴覚士

失語症や構音障害（うまく発音できない）などを残さないためのリハビリテーションとして、会話を中心とした訓練を行います。



作業療法士

運動麻痺などに対する手足の運動や、食事・更衣などの日常動作の訓練を行います。



理学療法士

運動麻痺や長期臥床後の動作障害、褥瘡^{しよくそう}などを起こさないための関節可動域運動、筋力増強運動などを行います。



質の高い リハビリテーションを 提供するために

リハビリテーション科は、理学療法士18人・作業療法士17人・言語聴覚士7人、マツサージ師1人、クランク2人の総勢45人で構成されており、365日体制をとっています。

各スタッフは院外研修会に積極的に参加するだけでなく、リハビリテーション科内でも勉強会を毎月実施するなど常にスキルアップに取り組み、それぞれが専門性を生かしながら、1人1人の患者さんに質の高い最善のリハビリテーションを提供できるように努めています。

摂食・嚥下障害のある患者さんには管理栄養士とともに、また患者さんのメンタルケアには臨床心理士と、時には音楽の持つ心理的・身体的働きを利用する音楽療法士と一緒に対応するなど、さまざまなセッションが連携をとりながら患者さんをサポートしていきます。

患者さんの障害された能力の改善を図り、残存している能力を活用できる環境を整え、ご家族への指導・助言なども行いながら、早期回復、早期退院に向けて全力を尽くしていきます。

365日
体制

柏葉脳神経外科病院の 急性期リハビリテーション医療

発症直後に開始される急性期リハビリテーションは、合併症予防や早期離床、機能回復を目指し、日常の基本動作の練習を主体としながら、1人1人の患者さんの状態に合わせて進められます。

多職種が連携するリハビリテーション体制

日々変化する患者さんの病状に適切に対応するため、日曜を除く毎朝、多職種が集まってカンファレンスを行い、早期回復を目指した専門治療を展開しています。



関節可動域訓練
関節を動かし、可動域を正常化させて、血液の循環も良くなります



筋力強化トレーニング
麻痺で動かない関節や筋肉を動かす、筋力が衰えないようにします



起き上がり訓練
寝たまま腰を揺らし、股関節をほぐし、ベッドから足を下ろして上体を抱え、ベッドに腰かけます



呼吸介助
胸郭可動域を拡大させるストレッチで、排痰を促進し、自発呼吸をスムーズにします



移乗動作訓練
ベッドから車いすへ、車イスからベッドへの移乗を転倒しないよう安全に行えるようします



立ち上がり訓練
麻痺した足にも体重をかけ、体のバランスを保ちながら、両足で立ち上がります

急性期リハビリテーションは一日最大180分行われます。複数回に分けて行うことで、身体への負担を最小限に抑えながら、日常生活動作能力を維持・改善に努めます。

病院の理念

私たちは、安全で安心いただける医療のサービスに徹し、患者さんの幸せを守ります

病院の基本方針

- 患者さんにとって、思いやりのある最善の医療に全力をつくします
- 医師とスタッフによる説明と、患者さんの理解と選択に基づく医療を実践します
- 患者さんの意志とプライバシーを尊重します
- 医療従事者として、常に、豊かな人間性と技術の向上をめざします
- 救命・救急医療から心と体のリハビリテーションまで、脳の総合病院をめざします
- 地域医療機関との強力な連携をはかり、よりダイナミックな医療のサービスを提供します

患者さんの権利

- 患者さんは、平等で、安全な医療を受ける権利があります
- 自分の診療にかかわる人々の氏名と役割を知る権利があります
- 自分の病氣・治療・予後について知る権利があります
- 治療について承諾・拒否する権利があります
- 自分の診療について、他医師の意見（セカンドオピニオン）を得る権利があります
- 自分のプライバシーを守る権利があります
- 公的援助、地域サービスに関する情報を知る権利があります
- 病院職員に対して、意見・苦情を伝える権利があります

柏葉脳神経外科病院

部門レポート

臨床心理室

心理士…中村亜紀子

常勤の心理士が

心理的な問題解決の援助を

心理検査や箱庭療法など

当院の臨床心理室には、心理士が常勤しています。心理検査やカウンセリング、



箱庭療法では、患者さんが箱の中に自由に人形や建物を入れていきます



カウンセリングで、お話をじっくりとつかいます

ひとりて抱え込まずにご相談ください。

箱庭療法などを用いながら、心の状態や知能・認知機能を確認し、患者さんの心理的な問題を解決するための援助を、医師や看護師と連携しながら行います。

心のケアを置き去りにしない治療

当院には、病気やケガが原因で物事をうまく考えることができなくなる「高次脳機能障害」や、脳卒中後に気分が落ち込み、食欲不振や不眠などの症状が出る「PSD（脳卒中後うつ病）」などに悩む患者さんが入院し、精神科や物忘れ外来には、心の悩みや不安を抱えた患者さんが訪れます。心のケアが必要な場合は、心理士が関わりながら治療を進めます。

また、ストレスや不眠、不登校、引きこもり、適応障害など、精神的な悩みはひとりて抱え込まずにご相談ください。

職場風土改革2年目の取り組み

特定医療法人 柏葉脳神経外科病院

理事長 金子 貞男

当院は2008年6月9日付で、財団法人21世紀職業財団北海道事務所長より「職場風土改革促進事業実施事業主の指定を受けております。2年目となる今年度も引き続き、仕事と育児・介護が両立できる職場環境の整備と職員が安心して仕事が続けられる環境づくりに取り組んでまいります。

＜当院の取り組み事項＞

- 管理職層への研修の実施
- 両立支援制度の労働者への周知
- 小学校就学前の子を育てる職員に、所定外労働を免除する制度を導入
- 3歳未満の子を育てる職員に勤務時間の短縮制度を導入
- 育児子の看護休暇取得日数の見直し
- 育児休業者等が発生した場合の代替要員確保への明文化

編集後記

8月を迎え、本来なら夏本番というところなのでしようが不安定な天候が続いています。朝晩には、肌寒さを感じる日さえありますが、お変わりなくお過ごしでしょうか。当院では、表紙写真にもある屋上庭園がオープンし、患者さんとそのご家族や職員からも好評を得ており、癒しと和みの場としてご利用頂いております。